

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市 町 村 名 枚方市
 実践研究校名 楠葉中学校

【公開授業】公開日：平成25年11月25日

対象学年：第2学年

(教材・教科書名) NEW HORIZON ENGLISH COURSE 2 (東京書籍) (单元名) Multi Plus 3 好きなこと・もの	(本時の指導の目標) 自分の好きなこと・ものについて接続詞 if, that, when, because などを用いながら4文以上の英文を書き、発表することができる。
--	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・新しく習った事項を使って英語で自分の好きなことやものについて表現し、仲間の前で発表する機会を設定した。
- ・ICTを有効に活用してモデル文を提示し、視覚的に印象を与えた。
- ・NETから直接英作文の添削指導を受ける際に、英語でコミュニケーションをとる中で生徒が英語を理解する機会を作った。

(授業を終えた教員の感想)

- ・作文を書く活動に予想以上の時間をかけてしまったが、書くことへの指導として、一つの方法を提示できたと思う。
- ・モデル文の提示の仕方に工夫がいていると考えているため、今後も課題としていきたい。
- ・発表者は自分の書いた文を堂々と発表することで、自信になったと思う。

【研究協議会】

(テーマ) ライティング力の育成に向けた授業の工夫・改善	(指導・助言者) 関西大学 竹内 理 教授
---------------------------------	-----------------------------

(研究協議会で出された意見)

- ・Warm Up でのNETによるQ&Aが、テンポよく全員に対して行われ、生徒が楽しそうに取り組んでいる様子から、普段の授業における生徒との関係の良好さがわかり、よかった。
- ・子供たちが辞書を使うなどして積極的に作文に取り組んでいたのがよかった。
- ・生徒同士の教えあいが増えるとさらによい。
- ・例文の題材は生徒をひきつけるものでよかったが、例文の量が中学生にとっては多すぎるように感じた。
- ・発表がスムーズにできていてよかった。
- ・もっと多くの生徒が発表できたらよかった。
- ・文章の構成を身につけさせるために、NETやJETの例文を子供たちにも読ませる方法もある。
- ・一番前の席はスクリーンが見えにくいことや、ペアワークをする時に横・前後でもできるようにしているため、次の図の様な一人席が5つあるレイアウトとして工夫している。

前

見えにくい	一人席			一人席	見えにくい
	一人席			一人席	

後

- ・タイマーを使って活動にかける時間を生徒にわかりやすく明示していたのでメリハリがあった。
- ・生徒全員が発表に対して集中して聞く姿勢ができていた。発表者への英語での質問も、スムーズに行われていて、クラスの一体感が感じられた。
- ・生徒が新しく習った接続詞を使って作文を書こうと努力していた。
- ・教師の指示を聞いて、作業をするという生徒の姿勢がよかった。

(まとめ)

1. 授業の導入のQ&Aで全員に質問して答えさせることや、同じ答え方はダメというルール、もし質問に答えられない生徒がいた場合、できるだけ答えられる質問をにかえる等、生徒が英語活動に自信がもてる工夫がされていてよかった。
2. 音読や暗唱をしっかりとやっているから、文の型が定着しており、英作文が書ける。生徒の学習の進捗によっては、モデル文の提示の仕方はスクリーン上だけにするのか、紙に印刷してそれを参考に書かせるのか考えるといい。モデル文をスクリーン上だけの提示にする場合、モデル文を読んだほうが生徒の頭の中に残っている。
3. “Soccer is happy.”という文を書いた生徒がいたが、動名詞を学習するときに、“Soccer is happy.”は“Playing soccer is happy.”と書くと教えられている。「ライティングの目的=正確さ」という観点から、共通した間違いを、全体に提示して説明する機会をもちたい。
4. 教科書で暗唱した文を英作文に使ってもよいかという質問が活動の途中であった場合、その場(活動途中)で「その発想はいいね。」とほめることが形成的評価につながる。
5. 発表する時の注意点の中にアイコンタクトとあるが、ただ単に前を向くだけになりがちなので「誰と目が合った？」と発表者に聞く、もしくは聴衆に「発表者と目が合った？」と聞く確認ができる。発表する時の注意点として、始める前に「ニコッ」としようという約束をする。小学校の時から発表するときの注意点を理解させておくことも大切で、スマイル・ビッグボイス・ジェスチャーの正確さを追求させたい。
6. ライティングから発表へとつなげる活動は素晴らしい。評価シートを書くことに集中して、聞く姿勢が悪くなることもあるので、発表間に評価する時間をきちんととってあげることが大切である。生徒集団の学力に応じて評価項目を変えることも検討すべきである。
7. 全ての生徒に発表者への英語での質問を考えさせるのではなく、英語が苦手な生徒には発表の内容を聞き取ることに集中させ、英語が得意な生徒には発表者に対して英語でひとつ質問を考えるという取り組ませ方もある。